

目指す学校像	「はじめに子どもありき」の教育 ○児童一人ひとりが輝く学校 ○保護者にとって通わせてよかった学校 ○地域にあってよかった学校 ○教職員にとって勤めてよかった学校
--------	--

重点目標	1 学びの自律と個別最適な学びによる確かな学力の育成 2 子どもが安心・安全に過ごせる教育環境の整備 3 学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し連携・協働する開かれた学校づくり 4 子どもに寄り添い、学び続ける教職員の資質向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日令和6年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<p>〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国、市平均と比べやや低い結果である。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果分析から、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」に課題があり、設問に対する無回答率が高い傾向がみられる。 ○国語や算数への関心が高まっておらず、学習することの意義を実感したり達成感や充実感を味わったりできるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台タブレット型PCの活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</li> </ul>	<p>①全国及び市の学習状況調査の結果を分析し、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、授業改善の視点や効果的な手立てを学年ごとに設定し、学校全体で主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 ②不読率の改善に向け、学校図書館等と連携を図り、朝読書をはじめとした読書活動を推進する。 ③各教科等のねらいの達成に向け、一人一台タブレット型PCを積極的に、効果的に活用した学習を推進する。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートで「真剣な学び／進んで学習」への肯定的な回答の割合が、90%以上とすることができたか。さらに、児童が行うワークテストの平均点を90点以上とすることができたか。 ②読書環境を整備し、学校図書館の貸出冊数を1人30冊以上とすることができたか。 ③児童アンケートの調査結果により、「授業中に、ほぼ毎日／週3回以上ICTを使用しました」への回答の割合が、80%以上とすることができたか。</p>	<p>①全国学力学習状況調査の分析と課題を共有して授業に活かす校内研修を実施するなど授業改善に取り組むことで、学校自己評価に係るアンケートで肯定的な回答の割合が、94.3%となった。また、ワークテストの平均点が、85.9点となった。 ②学校図書館司書や図書ボランティアと連携し、週1回の朝読書をはじめ学年の実態に応じた読書活動に取り組むことで1人39冊の貸出冊数となった。 ③市教委と連携したICT研修等を実施し、授業中のタブレット型PCの使用頻度が向上したことで児童アンケートの調査結果が、80%となった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの学力に応じた個別最適な学びの実現に向け、更なる教職員の授業力向上を目指し、児童の学力向上を図る。</li> <li>児童が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするために学校図書館の環境整備や読書習慣の形成を図るなどして読書活動を推進する。</li> <li>市教委と連携を図りエバンジェリストを中心に校内研修を充実させ、教職員のICT活用能力の向上と学校全体のICT活用率の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年の教科担任制、中学年の交換授業等、先生によって工夫があり複数の先生がクラスを見てくれていること、同じ進度で授業が進んでいるということに安心感がある。</li> <li>図書ボランティアによる読み聞かせ等の活動について引き続き行い、本が好きな児童の育成を目指してもらいたい。</li> <li>授業参観を通してタブレットを活用した授業を実践していることが分かった。「学校の学習が楽しい」と児童が実感できる魅力ある授業を行ってほしい。</li> </ul>	
2	<p>〈現状〉 ○学校自己評価に係るアンケートで、「児童は友だちと仲よく生活していますか」への肯定的な回答の割合が、90%を超えている。 ○施設の瑕疵等による児童の大きなけがは起こらなかったが、施設の老朽化が進んでいる。 〈課題〉 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援していく。 ○事故防止に向け、施設の点検を定期的実施し、危険な箇所の修繕を進め、安心・安全な教育環境を維持していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内支援体制の充実</li> <li>施設・設備における安全管理の徹底</li> </ul>	<p>①児童理解を深めるため、生徒指導、教育相談、校内支援体制を充実させ、毎月の児童向けアンケートやにこにこ相談日を実施し、面談等の記録を蓄積して、継続的に把握できるよう努める。 ②チェックシートを活用して点検項目の共通理解を図り、毎月の安全点検日に全職員で実施する。管理職が毎日点検を行い、危険箇所や修繕箇所の早期発見をし、その都度関係機関と連携を図り、迅速な対応を行う。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートで「教職員は、保護者や児童からの相談や要望に対して、誠実に対応していますか」への肯定的な回答の割合が、児童90%以上、保護者85%以上とすることができたか。 ②危険・修繕箇所の発見から対策を立て、1か月以内に改善に向けた対応を実施することができたか。</p>	<p>①多面的な児童理解と児童情報を共有できる組織づくりに力を入れ、教育的支援の充実に取り組むことで、学校自己評価に係るアンケートで肯定的な回答の割合が、児童93%、保護者97%となった。 ②毎日の校内巡視と安全点検日に全教職員で毎月確実に実施した。子どもの安心安全を第一に考えて施設設備等の管理に尽力し、事務職員を中心に教育委員会と連携を図り、1か月以内に迅速に対応した。施設の瑕疵等による児童の大きな事故は起こらなかった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、児童一人ひとりに寄り添った教育的支援の充実に向け、SCやSSWをはじめ関係機関との連携を図り、迅速かつ組織的な対応、児童や保護者との相談活動を行う。</li> <li>引き続き、老朽化した施設の修繕による環境整備と定期的かつ確実な安全点検を実施する。</li> <li>必要に応じて教育委員会との連携を密に行い、学校安全の充実と安全管理の徹底に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの表情を見て、気にかけてくれる地域の方が多くいること、困った時に相談できる窓口が学校にあることがとてもありがたい。</li> <li>民生児童委員等、地域から家庭の様子を見守る体制をつくっていききたい。</li> <li>南門等、安全な学校のための修繕が進んだ一年であった。リフレッシュ工事に向け、引き続き安心安全な学校づくりをしてほしい。</li> </ul>	
3	<p>〈現状〉 ○学校運営協議会において、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら身出した課題の解決に向けて協働し、児童を地域全体で育てていくことを共有した。 〈課題〉 ○昨年度共有した目指す児童の姿を、家庭、地域などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童の育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的に行動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールを通じた、より一層の保護者・地域との連携</li> </ul>	<p>①学校運営協議会や地域の会の情報を発信し、目指す児童の姿等を広く家庭や地域と共有できるようにする。 ②学校行事等について、学校に関わる人々がHP上で閲覧できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。 ③地域人材(各種ボランティア)の確保に向け、自治会回覧板や学校便り等で周知・募集し、効果的に活用する。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートで「保護者にとって通わせてよかった学校／この地域にあってよかった学校」への肯定的な回答の割合が、95%以上とすることができたか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートの回収率が75%以上とすることができたか。 ③各種ボランティア人数を前年度比1割増とすることができたか。</p>	<p>①ランドデザインをもとに学校便りやHP、懇談会等を利用して家庭、地域へ学校経営方針の理解を求めることで学校自己評価に係るアンケートで肯定的な回答の割合が、95%となった。 ②毎月の便りや各種チラシを始め、学校の教育活動をHPで積極的に情報発信した。学校自己評価に係る保護者アンケートの回収率が、87%となった。 ③学校行事では必要に応じてボランティアを募り、地域人材の確保と活用に努め、前年度比約6割増となった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会において、目指す児童像を共有し、家庭、地域と連携を図る。</li> <li>PTAと連携、協働し、地域人材の確保と各ボランティア活動を推進し、地域に根ざした信頼される学校づくりを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根ざした学校づくりをしていくために、小中連携、保幼小連携等を積極的に行っていけるとよい。</li> <li>小学校と中学校の連携については、今年度の実践からさらに発展を目指し、小中の相互授業見学、合同避難訓練等について計画的に実施していくようにする。</li> <li>幼稚園、保育園等と継続的、定期的に交流できるとよい。</li> </ul>	
4	<p>〈現状〉 ○ICTを活用し「教える」から「学ぶ」への授業改革を推進するため、研修主任が中心となり研究を進めている。 ○会議の精選やデジタル化、ペーパーレス化をはじめ、業務改善に取り組んでいる。 〈課題〉 ○高学年の教科担任制への移行に伴う研修体制を確立し、児童及び教職員がICT機器をより一層活用する。 ○時間外在校時間に個人差があり、学校業務の負担感や多忙感が教職員に見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の資質向上を図る研修の充実</li> <li>学校業務の改善と教職員一人ひとりに応じた働き方改革の推進</li> </ul>	<p>①実践研究を各チームで深めるため、一人一台タブレット型PCを活用した「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の一人1研究授業を実施する。 ②校務用端末を効果的に活用するなどして、校務のICT化による業務改善を推進する。 ③一人で業務を抱えることがないようチームワークを大切にし、学年に留まらず学校全体で組織的に動く。</p>	<p>①「よい授業」アンケートの調査結果により、平均値が17.5ポイント以上とすることができたか。 ②教職員の時間外在校時間を月45時間以内とすることができたか。 ③学校自己評価に係る教職員アンケートで「勤めてよかった学校」への肯定的な回答の割合が、85%以上とすることができたか。</p>	<p>①研修体制を一新し、学習活動の工夫やICTの活用による授業力向上に取り組む、一人1研究授業を実施することで、「よい授業」アンケートの調査結果の平均値が、17.1ポイントとなった。 ②Formsを最大限活用するなど校務のICT化を進め、時間外在校時間が月平均29時間となった。 ③組織的な対応の徹底と風通しの良い職場づくりに努め、学校自己評価に係る教職員アンケートで肯定的な回答の割合が、90%となった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校課題研修を推進し、「学びの指標」を生かして、学びのポイント(じ・し・ゃ・く)の視点に基づく授業改善を図り、ICTを活用した授業力の向上に取り組む。</li> <li>教職員の健康管理に努め、教職員が毎日元気に子どもと向き合える職場環境の充実に向け、引き続き校務用端末を活用した校務の効率化による業務改善に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の業務改善のためには、保護者・地域が担えることもある。保護者の方には、登下校の見守りや旗ぶり当番等の協力を引き続きお願いしたい。</li> <li>地域では、学校だより等を紙で配付してもらっているが、ペーパーレス化に向け、ホームページからの閲覧を周知していきたい。</li> </ul>	